



行政視察報告書

令和 6 年 10 月 23 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 大山盛久 議員
議員 山本聡 議員
議員 議員

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 大阪府大東市もりねき書店

住 所	大阪府大東市北条 4 丁目 3 - 9 , 北条 3 - 1 - 1
電 話	0 7 2 - 3 0 0 - 2 0 5 0
視察案件	全国初の PPP 手法を用いた借上げ公営住宅・民間賃貸住宅の住宅棟、生活利便施設等の整備事業 morineki プロジェクトスキームの視察
期 日	令和 6 年 10 月 09 日 (水) 14 時 00 分 から 15 時 30 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり (もりねき企画 竹中雄一 氏)
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	大東市公営住宅(morineki プロジェクト), 及び付帯施設 (事業会社等)
概 要	大阪府大東市における公民連携まちづくり事業 (morineki プロジェクト) の視察を通じて、本市における公共施設の在り方, 市営住宅への取り組み方, 全体計画の導入プロセスの進め方などを教授頂く。 経年劣化した市営住宅を取り壊した後の地域一帯のまちづくりのコンセプト, 開発理念のもと将来を展望したまちのあり方を基本に, 事業スキームを練り上げ, スキーム作り, また将来に向けた展開イメージなど行政と民間のコラボレーションを目の当たりにすることで, 本市のまちづくりのための教材, 先行指標とし, 周辺地域への効果, 影響など確認する。魅力ある地域とは何か, 住みたくなる街とはどんなものか, 人の流れがどう変化するか, 実際の住居内や店舗, 事務所等を見学。
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 大阪府 和泉佐野市議会

住 所	大阪府泉佐野市住吉町 28-15 (泉佐野市役所)
電 話	072-463-6234
視察案件	学校給食へのオーガニック (有機) 農産物の導入事例の視察
期 日	令和6年10月10日 (木) 13 時 30分 から15時00分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり (泉佐野市学校給食担当理事 田中伸宏 氏)
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	泉佐野市役所 (市議会) 庁舎
概 要	地域経済の活性化、子どもたちの心身の成長のサポート、環境保全, などを背景にオーガニック給食 (有機農産物を使用した給食) を取り入れた給食が, 食育の環境を促進する効果があるといわれている。先行事例として大阪府泉佐野市の現場を視察することにより本市への取り組みの参考とする。 泉佐野市におけるオーガニック給食導入の経緯, 他市学校給食へのオーガニック (有機) 農産物の導入事例, 有機農産物の定義, 地元農家との連携, 有機農産物の消費の動向, 有機農業の取り組みの拡大, 等オーガニックを取り巻く環境を確認する。 泉佐野市の学校給食においては, 地産地消をベースとしたオーガニック食材以外の産品を取り扱いながら, 徐々に取扱品目を拡大している。 現在老朽化している給食センターを見直し, オーガニック給食の観点より給食の自校方式施設への建て替えへと方針を変更した。(9施設予定) 農業と SDGS と食育を加速し, シティーセールスへと繋ぎながら地域の活性化に寄与している, との報告を受けた。 オーガニック給食の実施にあたり食材を専門に扱う商社の存在が無いと実施困難な実態も確認できた。小学校5200食, 中学校2700食 (教職員含む) をオーガニック食材にて全品提供することはできない, としながら一部提供可能な食材を扱いながら地元農家との連携を視野に今後は自校で給食提供ができるよう方針転換した泉佐野市の考え方は, 今後の学校給食の在り方を考えさせられた機会となった。泉佐野市の農家ではオーガニック野菜は栽培しておらず, 従来提供してきた食米も減農薬を試み, 食べることに関する関心を喚起するとともに, 行政が取り組むことによる地域の活性化, ひいてはシティーセールス, シティープロモーションにつながっていくものと認識した。
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【 3 】 京都府 向日市議会

住 所	京都府向日市寺戸町中野 20 (向日市市役所議会事務局)
電 話	0 7 5 - 8 7 4 - 1 6 2 3
視察案件	向日市新庁舎及び市民会館整備事業の概要視察
期 日	令和6年10月11日(金) 10 時 00分 から11時30 分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり (向日市総務部財産管理課 大八木駿佑 氏他)
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	向日市市庁舎及び永守重信市民会館
概 要	庁舎及び市民会館の耐震化(平成27, 28年調査)を実施するにあたり、業務効率、コンパクト化を念頭に予算計画を進めていく中で、向日市出身のニデック(旧日本電産)創業者で現会長の永守重信氏より寄付の申し出があり、整備計画が本格的に進む。 本庁舎と市民会館は一体となっているが、建設時には市役所業務は旧本館にて継続して実施が可能であった。議会棟は別棟となっていて、今回の建て替えの対象とはなっていない。新庁舎側に廊下部分でつながっている。 計画から完成まで約5年を有したものであるが、比較的短期間に完成までこぎつけた要因は大口の寄付(エスエヌ興産社)によるところが大きい。西日本一小さな市を標榜する当市は、京都盆地の西に位置し、長岡京の一角をなしていたものであるが、地理的に平準化された土地であるため、まちが形成されていく中で地域特有の課題が多く存在することは想像しにくい。サービスを提供する行政の対応も比較的容易に実施できそうであり、市役所の建て替えや市民会館の一時閉鎖については市民からのクレームはなかったとアンケート調査の結果に出ている。また、京都市及び阪神地区に近いベッドタウンとしての位置づけもでき、現在でも若年層を中心に人口の増加が続いているため、市は成長過程にあり、近年多発する災害への備えを庁舎内に設けており、災害対策施設として機能できるよう、設計が施されている。 併設された市民会館に寄付者である永守重信氏の名前をそのまま会館名にして、寄付行為をたたえた名前になっている。隣接する庁舎と外観のイメージを統一してあり、一体感を演出している。ホール内の見学は出来なかったものの、市役所からのエントランス部分は共有されて、コンパクトにまとめられている。また、防災上の避難場所等に利用できるよう設計されていて、庁舎部分は補助金を活用して、利便性など多目的な使い方に配慮されている。
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺